

令和4年度 学校関係者評価書

<p>鈴鹿市立清和小学校</p>			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>1 授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学級での研究授業の実施 ・教職員による授業の共通認識を図る校内研修の実施 ・校内研修後の振り返りの共有 →児童アンケートによる検証。授業がわかる90%以上。表現することができる80%以上。 ・3年生以上で学Vivaや過去問を学期に1回取り組む →全国学力・学習状況調査やみえスタディチェック県平均以上。 <p>2 家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習強化週間とノーマディア週間を兼ねて学期に1回実施 →家庭学習時間(10分×学年+α)の定着90%以上 <p>〈成果と課題〉</p> <p>1・全学級で研究授業を実施することで系統的な指導を意識することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で日頃の悩みを出し合ったり、実践交流をしたりすることで学級経営や授業づくりについて学ぶことができた。 ・スプレッドシートで振り返りを共有することで、他の先生の学びを知り、新たな視点に気づきかけとなった。 ・児童アンケートの結果は「授業がわかる」92.4%、「上手に表現することができる」76.5% ←「上手に」という表現にひっかかった児童がいたため、来年度は取り除いてもよいのではないか。表現する以前に伝えようとする意欲がなかなかでない児童がいるため、意欲をもたせることに課題がある。 ・全国学力・学習状況調査やみえスタは県平均以上とすることができた。市教委による新聞のワークシートも活用しながら、応用問題にも対応できるようにしていく。 <p>2 家庭学習強化週間は学期に1回実施することができた。第1回は日程がよくなかったため、90%以上にはならなかったが、第2回は90%以上の児童が学習時間の定着を図ることができた。</p>	<p>○児童、保護者アンケートともに、教師の指導や教育に対する見方が上昇しており、家庭を含めた教育環境を進めることも大切である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○90%の児童がよくわかると答えていることは教員の研修や指導の成果である。 ●7.7%のわからないと答えている児童を置き去りにしない手立てが必要である。 ●児童アンケートで、チャイムで授業を始めることや自分から挨拶することに課題がある。基本的なことなので身につける指導が必要である。 ●授業参観を見て、児童の発言はあるものの、発言の声が小さい。 ●学習を理解できない児童への対処法が大切である。 △理科は全国平均を上回り、国語と算数は全国平均を若干では下回っている。課題も把握され、問題点に取り組む姿は浸透されてきている。 △自分の思いや考えを伝えることができるには、日々の積み重ねが大切である。 △校内研修は忙しいと思うが、授業力向上、人間性の幅を増やすためにも積極的に実施してほしい。 △読書は全学年を通じて積極的に実施してほしい。 ○わかる授業は教員の努力のおかげである。今後も継続していくことで、学力向上にもつながっていく。 △家庭教育が定着していけるように強化週間ですらなる向上ができるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習につまずきが見られる児童は夏休みの学習会で補習を行っている。引き続き「わからない」と答えている児童を置き去りにせず、休み時間や放課後などに個別指導を行っている。 ・図書館ビンゴや読書の木、親子読書など、子どもたちの読書推進のために楽しみながら読書に親しむ取組を行ってきた。学年に応じて目標冊数を設定し、朝の読書の時間にクラス全員で図書館に行くなど、少しでも冊数が増えるようにしている。引き続き、読書推進の取組を進めていきたい。 ・コロナ禍によりこの三年間は声をなるべく出さないようにする指導を進めてきたので、声の大きさは以前よりも課題をもっている児童が多い。「声のものさし」という掲示物を用いて、その場に応じた声の大きさの指導を行っていくとともに、少しずつ歌を歌ったり、大きな声を出したりする機会も増やしていきたいと思う。 ・クロムブックを使って学Vivaセットに取り組んだり、CBTシステムに入っている問題に取り組んだりして、ICTを使って応用問題に慣れさせていきたい。取り組む時間の確保に課題があるが、モジュールや普段の授業、家庭学習などその子に合ったやり方で進められるように方法を模索していきたい。
	ICTの活用	<p>1 端末機器を生かした学び(授業・家庭学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるICT端末の活用、週末・長期休暇の児童の端末の持ち帰りの実施 →chromebookについての児童アンケートで「はい」「どちらかといえばはい」の割合が、chromebookを使った授業が楽しい90%以上、わかりやすい80%以上、使い方を学んだ学習に慣れた80%以上。 <p>2 教職員の活用力アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT関係の研修の実施 →研修後教職員にアンケートによる検証 ・各学年の実践紹介、交流の場を設ける →研修後教職員にアンケートによる検証 <p>〈成果と課題〉</p> <p>1 児童アンケートで「学習でパソコンを便利に使えているか」に対し、94.6%が「はい」「どちらかといえばはい」と答えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち帰りは2学期までは中・高学年は週1程度、全学年長期休暇の持ち帰りを行った。3学期以降、4・5・6年生は毎日の持ち帰りを実施する。 ・今年度からクロムブックの活用を積極的に取り組んできたことで、使い方に慣れ、ICTを活用した学びができた児童が多かった。 <p>2 研修を通して、教職員間の活用に関する知識の差が埋められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の場面を具体的にイメージできたことで、今後の活用につながる研修になった。 ・具体的な活用を共有できる機会を増やすことで、活用力アップにつながる。 	<p>○ICTを活用して児童同士のコミュニケーションツールになっている様子が観れてよかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クロムブックを使った宿題を出された日はすぐに宿題に取りかかり子どもの意欲付けになってよい。 △最近ではゲームやスマホ等の普及から抵抗のある児童は少ないと思うが、情報モラル等にも気をつけてほしい。 ●ゲームやスマホ等の家庭での使用について気をつけている割合が低い。保護者のへの働きかけや意識改革も必要である。 △ICT危機の熟練度は高まると思うが、あくまでツールであるので、基礎基本の徹底は怠らないようにしてほしい。 △持ち帰りに慣れてくると活用の仕方が課題になることもあるので、授業の中で具体的な活用方法について指導の徹底が必要である。 △将来の学習や生活には欠かせないのでICT活用が定着できるように根気強く取り組んでほしい。 △教員自身がICT機器をうまく使いこなしているかどうかが大変である。動画や写真等を用いてメリハリをつけ、児童に興味関心をもたせるように工夫してほしい。また、全児童が使いこなせるよう計画的に指導してほしい。
生活指導・人権教育		<p>1 自分で判断し行動できる児童の育成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感の向上 →アンケートで「学校が楽しい」90% →「自分に好きなところがある」75% <p>2 教職員の感性磨き・スキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践レポート交流会と講師 → ・人権研修授業 → <p>〈成果と課題〉</p> <p>1. 学校が安心できる場所になっているが、つながりはあっても自分に自信のない児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの「自分に好きなところはありますか」は答えにくい。 2. 全職員で情報共有し、児童を見ることができた。 ・日常生活とつなげて人権教育を進めていくうえで、大切にすることを講師から学び、実践することでスキルアップにつながった。 ・児童を取り巻くトラブルが複雑で、個に応じた対応が十分にできていない時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校が楽しいと感じている児童の割合が90%あり思ったより高い。 ○学校が楽しいと感じている割合が90%あり良い。100%を目指してほしい。 ○下校時はほとんどの児童が元気よく挨拶して気持ちが良い。 ●自己肯定感という難しいので、自分で判断して行動できる児童の育成としてもらえるとうわりやすいのではないかと。 ●清和サポート隊の活動時にきちんと挨拶できない児童も多いので、できるだけ話しかけて慣れるようにしている。 ●参観時に授業中教室へ入れない児童がいるのが気になった。 △学校が楽しいという児童が90%に対して、楽しく感じている児童が2.5%いるので、しっかりと向き合っていきたい。 △児童は親の背中、行動、言動をよく見ているので、親子の対話は大切である。大人の目線と子どもの目線では大きな隔たりもあるので、ちょっとしたことを家庭で話題にして話す機会をもつことで、児童の安心感にもつながると思う。 △昨年度の改善点で懇談会等で話し合う機会をつくるとあったが、コロナ禍で実施できていないようなので、家庭教育学級等、保護者と話し合う場があるとよい。 △保護者や教師、児童が互いの良い所や好きな所を伝え合うことが大切である。そのためにも、子どもに関わる全ての人が1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」を知っておくべきである。
	長欠減少	<p>1 新たな不登校を生まない学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心していられる居場所づくり・学力保障 →児童アンケート「先生に大切にされていると感じる」の問いに「はい・どちらかといえばはい」と回答した児童80% ・特別支援教育校内委員会で校内体制・児童支援についての検討 →年間10回開催 <p>2 不登校(傾向)児童への適切な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SLS、SC、支援員、養護教諭等による個別の支援 →不登校(傾向)児童の様子から検証 <p>〈成果と課題〉</p> <p>1 先生に大切にされていると感じている児童が92.7%、学校生活が楽しいと感じている児童が91%あることから、学校が安心できる場になっている。校内支援員は計画的に行い、情報共有するとともに、毎月の職員会議でも全教職員で共有している他、必要に応じて関係機関やSCとも連携できている。</p> <p>2 担任がひとりでは抱え込むことないように、児童生徒理解・支援シートの記載の充実に努めていく。家庭訪問等の情報を記録に残し、その情報をもとにSCや関係機関(支援課・子ども家庭支援課・SSW)と連携して不登校対策支援会議を開き学校ができる支援対策に努めている。養護教諭を中心に相談体制の充実を図るとともに、研修会を通して教職員の相談対応力の資質向上に努めることができた。SCが変わり保護者への周知も図っているが、相談件数が少ない点は課題である。</p> <p>※今年度よりアンケート内容を見直し、年度当初の目標指標に表せないものもあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> △今ははじめや嫌なことがあり学校に行きたくないというよりも、何となく行きたくないという子が増えてきているので先生方も対処の仕方が大変だと思う。 △自分の思っていることや話したいことを伝えることができたかの学力は日々の積み重ねだと思う。 △遅刻が多い、休みがちな児童を早期発見して見守り、支援につなげるチーム作りが大切である。 △市議員報告からも特に低学年児童の心理的ストレスが大きく、登校しづらくなる児童が増加した見解がある。不登校児童への適切な支援の充実を他校の良い実践策の意見交換をするなどの必要がある。 △長欠児童対策は初期対応が大切だと思うので組織的に対応してほしい。 △不登校や不登校傾向の児童の実態を全教職員で情報共有して、一人一人の子どもを見守ってもらう児童支援を継続してほしい。 △不登校をなくす取組をみんなで考え行動する必要があるため、取組の強化をお願いしたい。
地域連携		<p>1 安全安心な環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「はじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか。」 →80%以上で目標達成。 ・保護者・地域アンケート「学校は子どもの安全対策に取り組んでいるか。」「学校は子どもの悩みに適切に対応しているか。」 →80%以上で目標達成 <p>2 家庭におけるゲーム・スマホ時間の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「ゲームやスマートフォンなどを使いすぎないように気をつけているか。」 →80%以上で目標達成。 ・保護者アンケート「ゲームやスマートフォンなどを使いすぎないように、お子さんとルールを決めて、使いすぎないように努めていますか。」 →80%以上で目標達成。 ・ノーマディアDAY3回の取組→75%達成で目標達成 <p>〈成果と課題〉</p> <p>1 全体の96.5%がはじめはいけないことであると回答しているが、すべての児童がはじめはどんな理由があってもいけないことだと理解できるよう、道徳の教科やすべての教育活動の中で人権学習を通して、いじめに対する意識と実践行動を育成していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は子どもの悩みや問題に適切に対応している」と全体の85.5%が回答しており、児童にとって学校が安心できる場になっている。今後も児童対応について学校全体で報告・連絡・相談体制の周知徹底を図るとともに、保護者との連絡を密にしていけることが大切である。 <p>2 児童アンケートで、「ゲームやスマホを使いすぎないように気をつけている」割合が64.8%。保護者アンケートで、児童の平日のゲーム・スマホ使用時間が2時間以上の割合が21.1%(11.6%、3時間以上9.6%)から、家庭でのルール徹底が困難な状況である。ノーマディアdayは創設中学校区で取り組み、本校児童の達成度は85%で目標は達成している感があるが、児童が決める目標値が2時間以上など高い子もいるため、結果としてゲームやスマホや時間が長い児童もおり、課題となっている。</p> <p>※今年度よりアンケート内容を見直し、年度当初の目標指標に表せないものもあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> △校庭が広く樹木が多いので児童への安全面からも除草や選定作業は必要である。地域とPTAが協力し合って作業していけるとよい。 △地域の数少ない祭事等に教師や児童が参加していただくことによって交流が図れるとうい。 △子ども達にいじめはダメとわかっているが些細なことがいじめにつながるという事例を紹介して指導してほしい。 ○ノーマディアDAYの取組は中学校全体で親子が取り組む良い方法である。 ●新聞紙上で2022年度全国体力テストの結果が出ていたが、小学校5年生男女8種目で前年を下回っているということだが、スマホやゲーム等に利用時間増が影響しているのではないかと。 ●2時間以上の子に対しては親子の話し合いがなされているのか心配である。 ●ゲームやスマホは大人でも中毒になる方もいるので、児童への継続した指導と共に保護者も巻き込んだ指導が必要である。 △いじめ対策や子どもの悩み相談は時間と労力が必要であるが、保護者と連携して目標値を達成してほしい。 △ノーマディアデーの時は使用を気をつけて控えるが、それ以外の日も使いすぎないようにするための話し合いの場があるとよい。 △ノーマディアデーの時は気をつけて使用を控えているので、常に使いすぎないようにするには、ゲーム以外に何を遊んだらよいか遊びの種類をみんなで考えるなどどうしたらよいか考える話し合いの場があるとよい。 △ゲーム障害は精神疾患であるので、親が一方向的に言うのではなく、親子で話し合い、ルールを決めることが大切である。